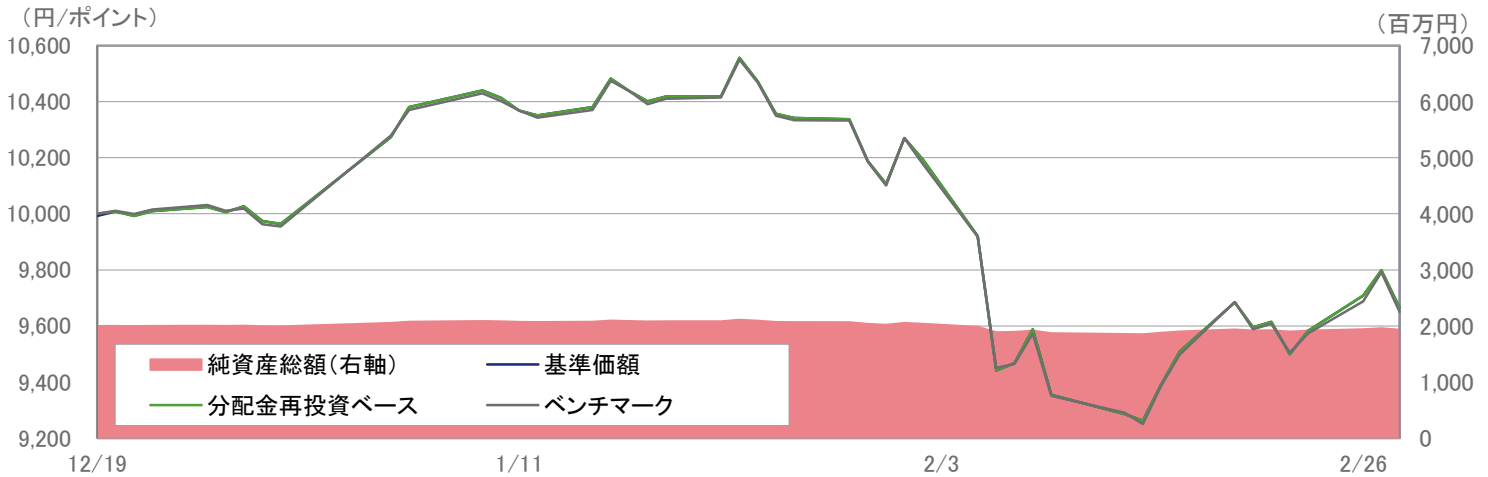


## ■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。

※2 ベンチマークの設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。

※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## ■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)		ベンチマーク (日経平均株価)		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(円)	②騰落率(%)	
当月末	9,665	-	22,068.24	-	-
過去1ヵ月	10,107	-4.37	23,098.29	-4.46	0.09
過去3ヵ月	-	-	-	-	-
過去6ヵ月	-	-	-	-	-
過去1年	-	-	-	-	-
過去3年	-	-	-	-	-
設定日来	10,000	-3.35	22,868.00	-3.50	0.15

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。

また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。

※2 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## ■ 運用資産構成比率

マザーファンド	比率(%)
国内株式	99.8
現物	61.5
先物	38.3
短期資産等	0.2
合計	100.0

※1 比率は純資産総額対比です。

※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

## ■ 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
-	-
-	-
-	-
-	-
-	-
設定来合計	-

※ 1万口当たりの実績です。

## ■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	9,665	10,107	-442
純資産総額 (百万円)	1,933	2,022	-88

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

	基準価額 (円)	日付
設定来高値	10,557	2018年1月23日
設定来安値	9,262	2018年2月14日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。

※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

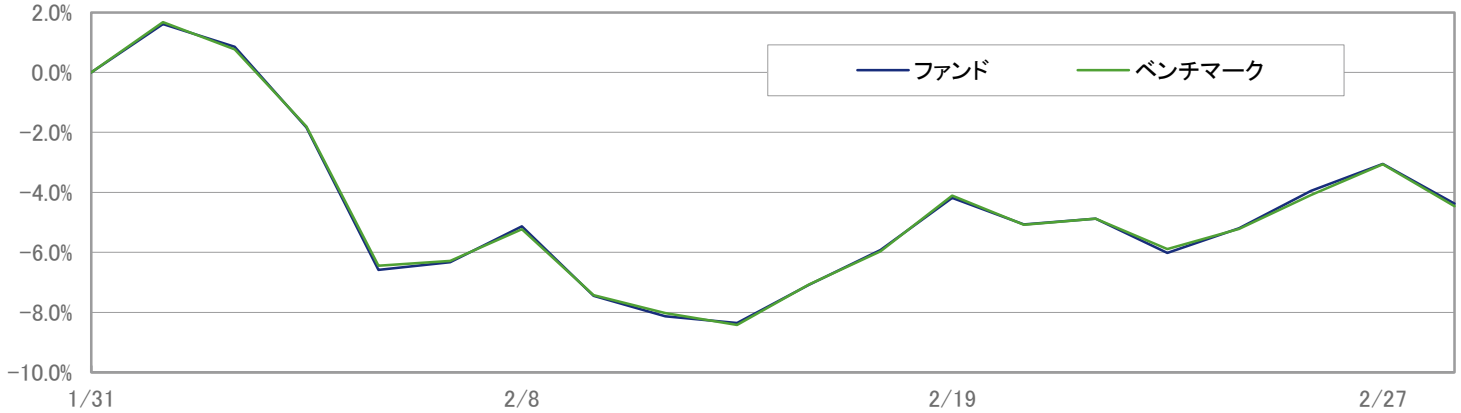
## ■ 運用概況

当月末の基準価額は、9,665円(前月比-442円)となりました。  
また、当ファンドの月間騰落率は-4.37%となり、ベンチマークの月間騰落率は-4.46%となりました。

## &lt;市場動向・相場見通し&gt;

## ■ 2月の市場動向と運用状況

当月のパフォーマンス推移



※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

## &lt;市場動向&gt;

日経225は、前月比4.46%のマイナスとなりました。月初は、米国にてインフレに対する懸念が台頭し、米連邦準備制度理事会(FRB)が予想より早いペースで利上げするとの見方が広がった事から世界的にリスク回避姿勢が強まり、国内株式市場は大幅下落となりました。その後、円高進行や米国の利上げ軌道を警戒した不安定な動きとなる一方、企業決算がほぼ出揃い好調な企業収益が確認された事から持ち直し、月末の日経225は22,068円24銭となりました。

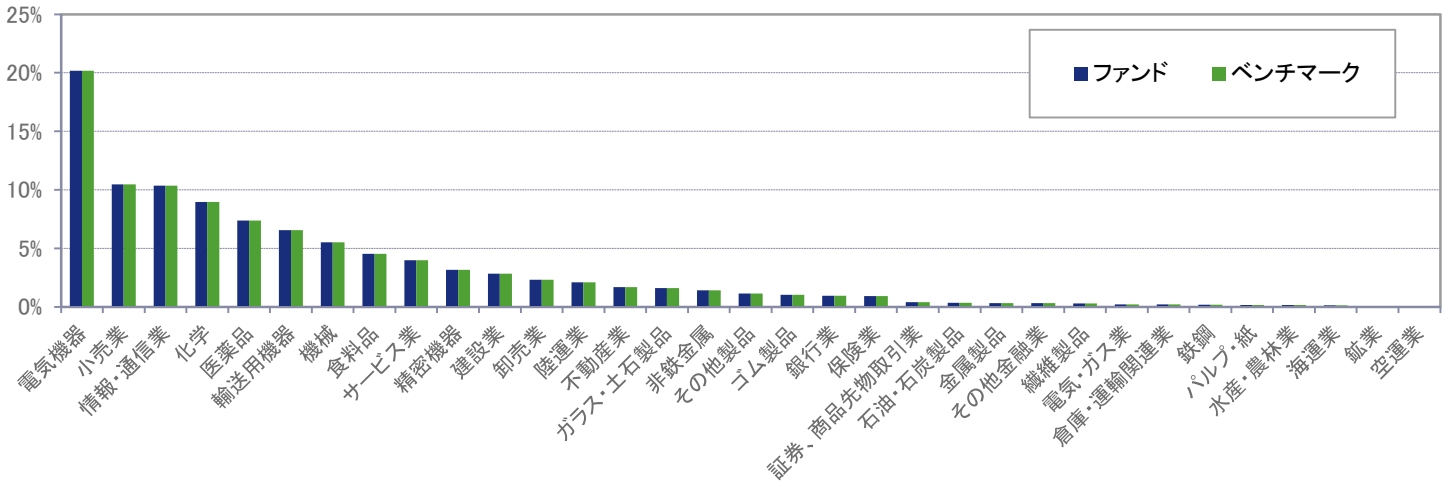
## &lt;今後の相場見通し&gt;

足元では米国金利の上昇ペースが加速する事への懸念が燻っていますが、国内企業業績は半導体や電子部品が好調なほか、市況関連製品の採算性改善等にも支えられて今年度通期+20%強及び2018年度同+7%程度の増益が見込まれています。順調に推移する企業業績に加え、世界的な株価調整によって割安な水準で推移している事に鑑み、下値を固める展開を想定しています。

※運用担当者のコメントは2月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

## <マザーファンドの運用状況>

### ■ 業種別組入比率



※1 業種分類は東証33分類に基づいています。

※2 比率は国内株式現物対比です。

### ■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	業種	組入比率(%)
1	ファーストリテイリング	小売業	7.2
2	ファナック	電気機器	4.6
3	ソフトバンクグループ	情報・通信業	4.5
4	東京エレクトロン	電気機器	3.5
5	KDDI	情報・通信業	2.7
6	京セラ	電気機器	2.1
7	ダイキン工業	機械	2.1
8	テルモ	精密機器	1.9
9	信越化学工業	化学	1.9
10	TDK	電気機器	1.6

組入銘柄総数: 225銘柄

※比率は国内株式現物対比です。

### ■ 組入上位10業種

業種	比率(%)
電気機器	20.2
小売業	10.5
情報・通信業	10.4
化学	9.0
医薬品	7.4
輸送用機器	6.6
機械	5.5
食料品	4.5
サービス業	4.0
精密機器	3.2
その他	18.9

## 商品の特色

- 日本の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とし、「日経平均株価(日経225)」の値動きに連動する投資成果を目指して運用を行うインデックスファンドです。
- 購入時の手数料、換金時の手数料、信託財産留保額がかからないファンドです。
- 当ファンドは、日経225インデックス・マザーファンドを通じて投資を行います。

### ■ お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位
購入価額	購入申込受付日の基準価額とします。
購入代金	販売会社の指定する日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の基準価額とします。
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して5営業日目から支払いを行います。
申込締切時間	午後3時までとなります。
換金制限	信託財産の資産管理を円滑に行うために大口の換金には制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止等により購入・換金の申込受付が中止または取消しとなることがあります。
信託期間	無期限(設定日:平成29年12月19日)
繰上償還	受益権の総口数が10億口を下回った場合などには、繰上償還となる場合があります。
決算日	毎年11月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎年11月の決算時に分配を行います。販売会社との契約によっては、税引き後、無手数料で再投資が可能です。(年1回)
信託金の限度額	1兆円を限度とします。
公告	委託会社が投資者(受益者)に対してする公告は、日本経済新聞に掲載します。
運用報告書	毎年11月の決算時及び償還後に交付運用報告書を作成し、販売会社より知れている投資者(受益者)に対して交付します。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。 配当控除の適用があります。益金不算入制度の適用はありません。なお、税制が改正された場合等には変更される場合があります。

金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、ご購入申込みもしくはご換金申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けたご購入申込みもしくはご換金申込みを取り消す場合があります。

### ■ 委託会社、その他の関係法人

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員)  
信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- 受託会社 : 三菱UFJ信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本マスタートラスト信託銀行株式会社)  
追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 以下をご覧ください。  
ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

◆ 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社

ホームページ : <http://www.ja-asset.co.jp/>

フリーダイヤル : 0120-439-244(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

## 主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託(以下、「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申し込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

### ■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、マザーファンドへの投資を通じて実質的に株式など値動きのある証券を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、投資者(受益者)の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。

ファンドの運用による損益は、すべて投資者(受益者)の皆様はに帰属します。

投資信託は、預貯金と異なります。

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」などがあります。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

### ■ 当ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	ありません。
信託財産留保額	ありません。
投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用(信託報酬)	毎日、純資産総額に年0.378%(税抜0.35%)を乗じた額を計上します。 毎計算期間の最初の6ヵ月終了日及び毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。
その他の費用・手数料	監査費用は、毎日、純資産総額に年0.00324%(税抜0.003%)を乗じた額を計上します。 毎計算期間末または信託終了のとき信託財産中から支払われます。 有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等は、その都度信託財産中から支払われます。 ※運用状況により変動するため、事前に料率、上限額等を表示することができません。

※ファンドの費用の合計額は、投資者の皆様がファンドを保有する期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ご購入の際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

## 留意事項

- 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。
- 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。
- 当ファンドは、株式などの値動きの生じる証券に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。
- 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。
- ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。
- 日経平均株価(日経225)に関する著作権、知的財産、その他一切の権利は日本経済新聞社に帰属します。また、日本経済新聞社は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。